

令和4年度

教育課程特例校における特別な教育課程

【実施状況報告】

令和5年7月

箕面市教育委員会

1.概要

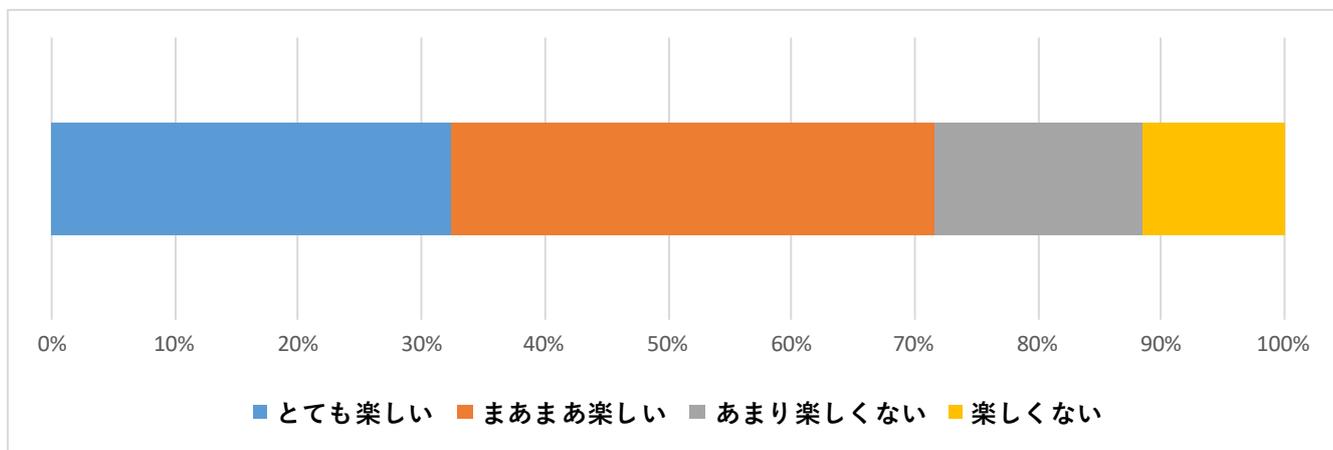
箕面市では平成27年4月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間140時間（週4時間）の外国語科（英語）に加えて、総合的な学習の時間から年間30時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に1時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境作りを行うことができています。特別の教育課程を実施することで、9年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境作りを行っています。

2. 箕面市の生徒アンケートの結果

○英語を使ってコミュニケーションを図ることは楽しいと思えますか。

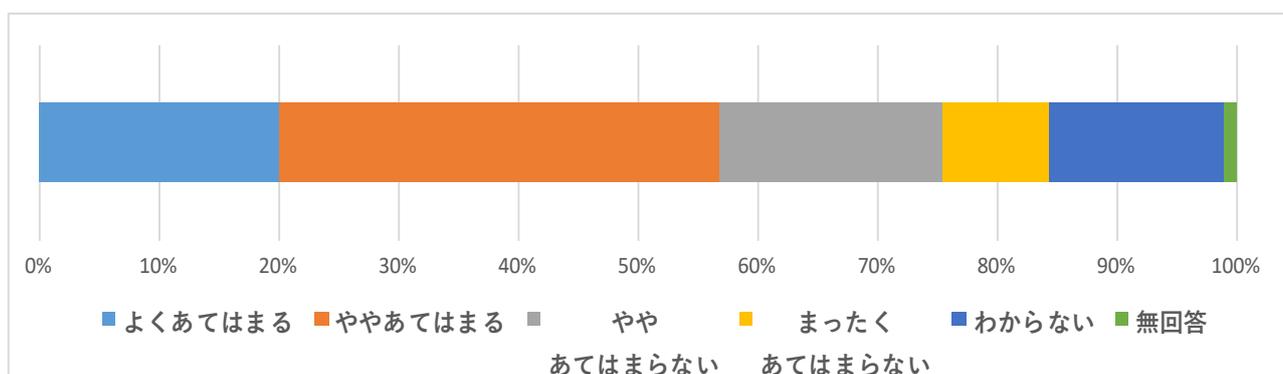
	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
1年生（7年生）	30.7	39.4	16.3	13.2
2年生（8年生）	28.6	38.5	19.6	12.1
3年生（9年生）	36.9	38.4	14.4	8.8
平均	32.1	38.8	16.8	11.4



3.保護者・学校関係者からの評価

○子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる。

	よくあてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない	無回答
合計	20	36.8	18.7	8.8	14.7	1



- 学年があがるにつれて英語で表現できることも増えて、英語の 興味や関心が高まっているようである。英語コミュニケーションの授業を通して子どもたちが英語 を楽しみながら授業を受けている。
- 英語コミュニケーションの授業は、魅力的な授業ではある。生徒たちも興味を持って、楽しんで授業を受けている。校内において ALT と、日常的に簡単な英語を使ってコミュニケーションを取ろうとするなど、英語に親しんでいる様子が伝わる。
- 英語コミュニケーションの授業は、ALT と英語教員がオールイングリッシュで授業を展開していくので子どもたちが英語に慣れ、入試などのリスニングテストに強くなる。
- 小学校から英語に触れる機会があることで、子どもたちが英語に親しみを持って、継続的に学習できるところが素晴らしい。

4.今後に向けて

- 英語コミュニケーションの授業は ALT を中心に授業を展開するため、子どもたちの英語への興味・関心を高めるよい機会になっている。今後、子どもたちが英語に慣れ親しみ、英語を活用できる能力を高め、国際社会で活躍できる生徒を育てていきたい。
- 生徒たちは、『聞くこと』『話すこと』は比較的好きではあるが、学年が上がるにつれ、それを可能にする英語の基礎学力がかけがえのないものとなる。書くことに対する抵抗は多くの生徒が持っているので、レギュラーの授業や英語 C の授業でも、工夫が必要である。
- 外国語で他者とコミュニケーションを図る機会をより充実したものとし、生徒たちが、場面や状況に応じて情報を整理しながら考えを形成・再構築したりする力を今後も養っていく。また、外国語で他者とコミュニケーションを円滑に行う上で、生徒たちが社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要である。そうした姿勢を英語コミュニケーション科の中でも養っていきたい。